

# ジャパンプラブ

NEWS LETTER

Japan Club : 1759 Sutter Street #203, San Francisco, CA 94115 • Tel: 415-931-9424 • www.jpclub.org • jc-sf@sbcglobal.net

## 1 月度理事会報告

## 恒例「餅つき新年会」詳細決定

2月13日(日)金光チャーチ講堂に於いて開催、エンターテイナーに

### バンジョー奏者「チャーリー田川」さんグループを招く

ジャパンプラブ1月度の理事会は1月5日(水)午後6時半から日米会々議室において上野会長はじめ10名の理事が出席して行なわれた。議題に入る前、新年の挨拶を交わし、今年もジャパンプラブのさらなる発展の為に頑張る決意を新たにしました。

#### 1) 餅つき新年会について

2月13日に開催の「餅つき新年会」の詳細を打ち合わせ、各担当者を含め全ての決定がなされました。(詳しい案内が同封されています)

#### 2) その他

- ・ジャパンプラブの今年度(7月迄)の行事と予定日
  - ・ガレージセール 4月30日(土)又は5月21日(土)
  - ・ゴルフ大会 7月31日(日)
  - ・定期総会 7月23日(土)
  - ・講演会 内容、日時共に未定
- ・サウジアラビアに赴任された小川康弘一等書記官(前サンフランシスコ領事)からの新年の便り紹介(2面に掲載)
- ・2010年12月31日迄の会計報告が沖山会計理事からありました
- ・2011年の継続会員申し込みは今月末迄にお願いします

以上です、ご質問がありましたら事務局迄お問い合わせください

事務局

### 明けましておめでとうございます。

ジャパンプラブは16回目の新年を迎えたわけですが、年の経るのの速いことを改めて感ずるのは私ばかりではなく会員の皆様も同じであります。ジャパンプラブとしては新年もこれまで同様、幾つかの行事を予定しており、先ずは2月13日の「餅つき新年会」から始まります。それに続いていくつも楽しい行事が計画されていますので、今年は是非、これまでに増して会員の皆様のご参加を期待しております。

新年が会員の皆様及びご家族にとってよき年であることを心から願っております。

会長 上野 正安

「餅つき新年会」の詳しい案内がこのメールに同封されており、お確かめの上、同じく同封されている申し込み用紙をご利用ください



市川俊治氏にお聞きしたい方は質問をジャパンプラブ事務局迄お寄せください、お取り次ぎいたします。



### Q. 年金受給のため日本に銀行口座を開設できますか?

A. 日本の年金を米国の銀行に振り込むことにより銀行手数料を天引きされ、年金が目減りすることや、日本に一時帰国するときの滞在費などに充てたい等の事情から日本の年金を日本の銀行口座で受け取りたいというご希望があります。日本に居住していない人が、新たに日本で開設する銀行口座は「非居住者円預金」といわれます。日本国籍の方だけでなく、米国籍の方も日本の年金を振り込むための銀行口座を開設することができます。

#### 1. 日本で銀行口座を開設する際の注意事項

- (1) 手続きには本人が銀行に出向く必要があります。
- (2) 非居住者円預金はどこの銀行・支店でも取り扱っているわけではありません。ご希望の銀行・支店が取り扱っているかを必ず確認してください。
- (3) 口座開設をした取引店でのみの取引となります。キャッシュカードは発行されません。したがって、一時帰国の際に良く利用する滞在先に近い銀行で開設するのが便利かと思えます。
- (4) 口座開設の目的をはっきりさせることが必要です。「日本の年金を受け取るため」とか「国民年金の保険料を納付するため」といったことです。

### 年金問題、老後の保険などに答える

回答者  
市川俊治氏

## Q&A

(5) その店舗を選んだ理由の説明を求められることがあります。

(6) 日本国内の通信物の送付先として、連絡先を届けおくことを求められます。ただし、特別なことがなければ、通信物を送られてくることはありません。

#### 2. 必要な書類等

- (1) 本人確認書類: パスポート(氏名、生年月日、国籍を確認し、写真により本人であることを確認するため)
- (2) 外国住所確認書類: 外国運転免許証、在留証明等のいずれか 1点
- (3) 口座開設目的確認書類: 年金証書、年金手帳等(年金受給目的の場合) 保険料納付書等(国民年金の保険料納付目的の場合)
- (4) 印鑑: サインのみでは口座開設はできません。みとめ印及び実印どちらでも結構です。

この預金は誰でも自由に開設できるものではありません。マネーロンダリングを規制する関係から、一般に非居住者円預金口座の開設は厳しくなっています。口座開設のため日本に行かれる前に、ご自身なりお知り合いを通じてご希望の銀行・支店が取り扱っているかどうか、必要な書類は何かなど具体的なことを銀行に確認してから手続きに出向くようにしてください。尚、米国在住の方でも日本に銀行口座を残している方は、もちろん年金の振込み先をその口座に指定することができますので、引き続き口座を保持するようにしてください。以上



サンフランシスコ領事館の小川康弘前領事がサウジアラビアの首都リヤドの大使館に赴任された事はご存知と想います、これからも機会のあるごとに「サウジアラビア便り」を小川康弘一等書記官の便りを元に掲載します。

## 1 サウジアラビアの小川康弘です、 新年おめでとうございます

当国ではクリスマスの気配は全く無く、元日は祝日ではありません(ただし、当館は12月29日から1月2日まで休館です、3日が勤務初日です)

今回はリヤド市内の様子について御紹介します。前回、冬のリヤドの寒さが意外だったと書きましたが、もう一つ意外だったことは、街中の商店の看板はほぼ全て、アラビア語に加えて英語も併記されていることです(その意味では、日本は東京でさえ英語を併記した看板を見かけることはないので、リヤドは外国人の利便を考慮しているといえます)

市内にはマクドナルドやバーガーキングのほか、ピザハットやミッド、スタバまであります(店の数は少ないです)。しかし、ウォールグリーンやセブンイレブンのようなコンビニは見かけないので(どこかにあるのでしょうか、着任から現在まで見かけません。スーパーマーケットが24時間営業なので、コンビニを置く必要が無いのかもしれない)

当地日系企業の邦人駐在員や日本人学校の校長からもらった名刺には所在地が明記されておらず、企業名の下にP.O.Boxの番号が記載されているのみなので、その会社が街中のどこに所在するのか分かりません(当国の国営大企業である Saudi Arabian Oil Company の社員の名刺も同様です)

また、在留届や在外選挙人登録申請書も同様で、住所欄にはP.O.Boxの番号を記載するだけです。

主な道路には名前が付いているものの、番地が無いので、P.O.Boxの番号がその役割を果たしているとのこと。

ちなみに、当館館員の名刺は A-11 Diplomatic Quarter, P.O.Box 4095, Riyadh 11491, Kingdom of Saudi Arabia と表記されています(外交団地区(Diplomatic Quarter)はリヤドの街はずれに位置しています)

当地では交通事故がよく発生しますが、どうやら、自動車を運転する人の中には、自分の運転に集中するあまり、周囲の状況に目配りができない人がいるからのようです。

例えば、市内には信号がありますが、Diplomatic Quarter内は交通量が少ないこともあり、信号ではなく、ロータリーが多く設けられています。このロータリーから出る自動車と入ってくる自動車とで接触あるいは衝突事故が発生しています。

また、DQ内には信号のない交差点(四つ辻)もありますが、交差点付近で徐行はおろか、減速すらしない運転も多くみられます。

サウジアラビアの人は大型の自動車が好きなようで、大型のアメリカ車も多く走っています。また、BMWの7シリーズやベンツの500クラスも頻繁に見かけるので、やはり、産油国の裕福さを感じます。もちろん、日本車も走っていますが、プリウスは見かけません(ちなみに、僕の自動車は前任者から引き継いだ日産サニーです)

市内を走る警察車両にはいくつかの型があるようですが、その一つのセダンは見覚えがあると思ったら、サンフランシスコで走るタクシーと同じフォードでした(リヤド市内のタクシーはカローラか、ほぼ同規模の韓国車などです)

DQ内には道路沿いにナツメヤシの木が多く植えられています(この木の实がデーツで、100グラム当たり250キロカロリーと高い上、ビタミンCも豊富に含まれているため、貴重な栄養源でもあります、道路脇にもたくさんの実が落ちています)。

私が着任してから1月1日まで降雨は全く無く、木々の葉っぱも土ぼこりにまみれています(ただし、木々には1本1本、根本に水をやるための水道の栓が取り付けられており、都市計画の良さを感じさせます)

在サウジアラビア日本国大使館  
一等書記官兼領事 小川康弘

8月終わり、9月はバンコクは雨季だった。熱帯地区なのでさぞ暑いだろうと覚悟していたが、5月に訪れた時より、格段に涼しいので、拍子抜けする。一日に一度バケツの底を叩いた音のするような猛烈なスコールが降る。そのせいか、曇り空の日には蒸し暑い、猛暑にはならない。今年の夏はサンフランシスコでは涼期の夏となり、日本では異例の猛暑が続いていた。今回は一週間という短い滞在である。雨季なのでゴルフは半ば諦めていたが、3日もとも日中はスコールに遭わずにプレーできた。あとの3日は驚くなかれ、ビジネス日程になっていたが、早朝か夜にスコールは降り、日中には降られなかったのだ。

好きこそもの上手なれ、瓢箪から駒。塞翁が馬?どの諺が当てまるかまだ結果は出ていないが、タイへ旅行するたびにビジネスの話が舞い込むようになった。

始まりは2度目のタイ訪門の時だった。2008年11月の終わり、アメリカ経済はリーマン・ショックで揺れていた。バンコクでは11月26日の夜、PAD(反タクシン派、市民民主党団体)がスワンナプーン国際空港を占拠した。その為、空港は閉鎖され、観光客やビジネスマンたちは足止めを食らった。

## 3-1

### 「タイランド滞在記」

今井 利和 (文と写真)

第一話「ヘルスチェック&バケーションinタイ」  
第二話「タイ旅行記」として7回に分けて連載しました、  
今月号より第三話、第四話と引き続き掲載します。

私が宿泊していた Bandara Suite Hotel はシーロム地区にあり、バンコクの金融街の中心にあった。90%が日本人客という日本人びいきのホテルである。空港閉鎖が長引く中、日々、日本人客は一人一人姿を消していく。いままで満席に近かった朝のダイニングルームも4日目には客がまばらになっていた。いつもならきっと声をかけない日本人同士だろうが、状況が状況だけに心細くなり、どちらともなく声をかける心理状態になっていたと思う。『皆さん、どうやってここを脱出しているのですかね』私は前の席に座っている男性に訊いてみた。『ウタパオ空港から日本航空や全日空で来られた方には臨時便が出ています。私も明日、日本航空で帰国する手配をこちらの方へ頼んでいます。よろしかったら紹介します・・・』それがO氏だった。現地で人材派遣や輸出業をしている企業家である。

次の3度目のタイ訪中の際、ゴルフ仲間が急に同行出来なくなり、その代わりにお相手を頼んだのがO氏との付き合いの始まりだった。その時妻に『どうせタイへ行くならMRIの検査が保険なしで安く済むから、ついでにできたら』とそそのかされる。嫌だとは言えずに受けた。それがきっかけで、タイでのMRI、インプラント予約そして、ロングステイ、糖尿病集中治療入院施設、痴呆症介護施設斡旋など医療関連の事業へと構想が発展していった。

2月号に続きます